

夏秋きゅうり新規栽培者向け【一步先行く作業のポイント 4月】

◎排水対策

きゅうりの根は酸素を多く必要とし、根の8割は地表面から30cmほどの深さに分布しています。また、根が半日程度水に浸かった状態で枯死するとも言われます。つまり、きゅうり栽培に水は欠かせませんが、過剰な水は生育を著しく悪化させます。

きゅうり栽培に適したほ場とは、水が確保できて、なおかつ水はけがよいほ場です。

ほ場の選定にあたっては、以下のポイントに従って、水はけの様子もよく確認しておくことが大切です。

もし、水田など水はけの悪いほ場できゅうりを栽培しなければならない場合には、徹底的に排水対策に取り組みます。

○ 定植までに行う排水対策

- 水はけの悪いほ場の周囲に、排水溝を設置します。ほ場に溝を切る機械があればよいが、ない場合はスコップなどを用いて作業します。排水溝にたまった水を河川等へ流す排水口も併せて設置します。土手を切る必要がある場合などは事前に地主さんの許可をいただくことも忘れずに行ってください。
- 水はけの悪いほ場では、管理機を何度か往復させ、ロータリーでうね間の土を跳ね上げて、うねを高く盛り上げる作業を繰り返します。うね間が排水溝の役割も果たし、根が湿害を受けにくくなります。
- いずれの排水対策作業も湿田では重労働となりますので、一度にやろうとせず、少しずつ計画的に取り組むことが大切です。

○ 排水対策の必要性の判断ポイント

- 一時的に十分な雨(20mm/日)が降った後、1日以上滞水している場合は、排水対策が必要となります。
- JAや農業農村支援センターではほ場の排水性調査や改善提案などを行っているので、ご相談ください。



土手を切って、排水「溝」の水を河川等へ流す排水「口」を設置 (丸い枠の中)



うね間の土を繰り返して盛り上げて、高うねにする

◎雑草対策 ～後回しにすると、よもやよもや大変なことに…～

何も雑草対策をとらずに繁茂させたま放置すると、次のような「負の連鎖」に陥りやすくなります。

○ 収量品質に対する影響

- 管理作業がしにくくなります。(特に収穫時の台車の動きが悪くなります)
- 農薬が付着しにくくなることで、病虫害の発生、被害拡大のリスクが高まります。

○ モチベーションへの影響

- 「まだ除草しないでいいや」と先送りにすると、雑草は想像を超えるスピードで繁茂し、「やばい」と気づいた時には簡単には除草ができない状態になっています。
- すると、ほ場を清潔な状態に維持しようという決意はどこかへ消え失せ、やがてもっともらしい理由をつけて雑草の繁茂を「初めてだから仕方のないこと」と正当化する傾向にあります。
- しかし、雑草の繁茂したほ場を見て、あなたに対する周囲の評価が下がります。
- そして、きゅうり栽培がづらくなります。

篤農家は雑草を見ずして、雑草をとる
普通の農家は雑草を見て、雑草をとる
墮農は雑草を見ても、雑草をとらず

○ 雑草が生えやすい場所と対策

- 植穴 → 管理作業の中でこまめにとります。
- ほ場内およびその周囲 → 小さいうち(出芽後すぐ)に、手取り、草かき、刈り払い機等で除草します。
- マルチの縁周辺の踏みにくい場所 → 管理作業の中でこまめに除草、防草シートを張ります(画像)。
- 雑草の種子が落下する前に除草しないと、翌年それ以上の雑草が繁茂することになります。



ポリマルチの縁には雑草が生えやすい



ポリマルチの縁に防草シートを張って雑草対策